

群 教 セ	G01 - 04
	令7.290集
	国語 - 高

自分の考えを広げ、深めることができる 生徒の育成

—— 比べ読み活動と解説活動を通して ——

特別研修員 高柳 健太郎

I 研究の概要

1 主題設定の理由

高等学校学習指導要領(平成30年度告示)解説国語編において、「現代の国語」は、実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けること「知識、技能」、論理的思考力・深い共感性・豊かな想像力を伸ばし、他者との関わり中での伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすること「思考力、判断力、表現力等」を目標として設定した科目である。そして、「読むこと」領域においては、複数の文章を比較したり、関連付けたりながら、理解したことや解釈したことをまとめて発表する活動を通して、内容や書き手の意図を解釈し、自分の考えを深めることを目的としている。

研究協力校の生徒は、特に国語科の授業においては、懸命に文章を読んで解釈しようとする姿が見られたり、難題に対して他者と協働しながら解決を図ろうとしたりする姿が見られる。一方で、問いに対する絶対的な解答やその解答に至るまでの最短の過程を求めていたり、間違いや失敗を恐れていたりにするために受動的な学習姿勢から脱却できないという課題が残っている。また、学習内容と自身の既有知識や経験、実社会とが結び付かず、自身の考えを広げたり深めたりすることに課題がある。

このような生徒に対して、教師から提示される解答や解説を待つ受動的な学習姿勢でなく、生徒自らが課題に向き合いながら試行錯誤して学ぶような能動的な学習姿勢を身に付けるとともに、学んだ内容を自分自身の既有知識や経験、実社会と結び付け、自らの考えを広げ、深め、他単元や他教科の学習、ひいては生徒を取り巻く課題の解決に活かしてほしいと考えた。

そこで、比べ読み活動と、本文中のキーワードの解説活動を通して、多様な論理的文章や他者の考えに触れて試行錯誤を繰り返しながら、自分の考えを広げ、深めることができる生徒の育成を目指して本研究のテーマを設定した。

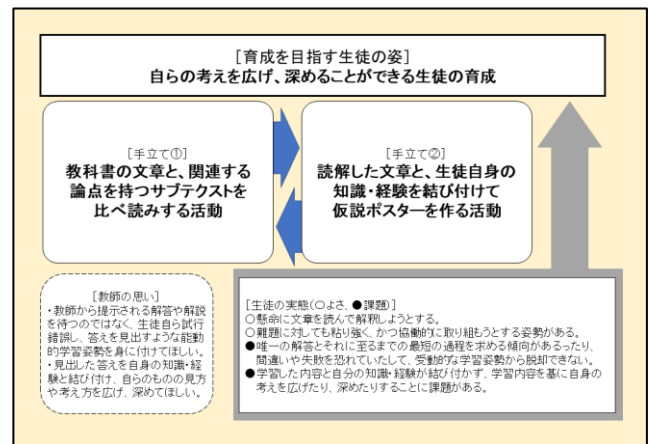


図1 研究のイメージ

2 具体的な手立て

手立て1 比べ読み活動

教科書の文章と、関連する論点をもつ文章(サブテキスト)を関連付けて読む活動。メインテキストの内容を補強して解釈を深めること、生徒の試行錯誤を促して考えを広げたり、深めたりすることを目的としている。

手立て2 解説活動

本文中のキーワードについて、文章から読み取った内容と、生徒自身の知識や経験を結び付けて表現する活動。本文の内容を捉え直し、解釈したことを表現できる能動的な学習機会を確保すること、学習内容と既存の知識・経験を結びつけて生徒の考えを広げたり深めたりすることを目的としている。

II 実践例

- 1 単元名 自らの考えを広げ深めるために文章を関連付けて読み、解説ポスターを作成しよう
題材名 「時間をめぐる衝突」内山節(『精選 現代の国語』明治書院)

2 授業の実際

本単元は全6時間構成で実施し、第3～4時で手立て1の比べ読み活動を行い、第5～6時で手立て2の解説活動を行った。

(1) 手立て1について

比べ読み活動を行うに当たって、教科書本文「時間をめぐる衝突」(内山節『精選 現代の国語』明治書院)(以下、本文)と関連する論点をもつ「文化と文明」(高階秀爾『本の遠近法』新書館、2006)(以下、サブテキスト)を参照した。

本文は東京新聞(2004年3月16日夕刊)の文化欄に掲載された文章である。比較的量が少なく、平易な言葉で記述されている。しかしながら、本文前半部で生徒にとっても身近な「時間」について、上野村の生活を支える「村の時間」と「都市型の時間」の時間との二項対立を手掛かりにしながら扱った後に、本文後半部では「戦争」や「グローバル化」、「近代化」などの抽象的な概念・社会課題へと展開する構成となっている。生徒が本文を初読した直後に取ったアンケートでは、「冒頭の『時間』に関する話から、最終的には戦争などといった話にまで発展しているところに難しさを感じた。」などといった感想が散見され、内容の理解や書き手の意図を解釈が難しい文章であると考えた。

サブテキストは、「文化」と「文明」の二項対立を手掛かりに特定の土地・社会にもともとあった固有の「文化」が、普遍的で近代的なシステムとしての「文明」にとって代わられていくことを話題とした評論文である。本文とサブテキストの共通性に目を向けることで、本文で語られている「村の時間」はサブテキストにおける「文化」の一つであり、「都市型の時間」は「文明」の一つであること、文明が普及することによって固有の文化が失われていくことを「侵略」と捉え、その際に両者の間に衝突を引き起こされることなどが理解できる。そのため、本文の内容の理解や書き手の意図の解釈を助ける文章として、最適であると考えた。

第3時では、生徒は「文化」と「文明」の二項対立に注目しながらサブテキストの解釈を進め、本文との共通性について検討した。加えて、本文中の「村の時間」が「文化」の一例であり、「都市型の時間」が「文明」の一例であることを理解した。

第4時では、本文の解釈を深め、生徒自身の考えを広げたり、深めたりするため、前時までの内容を踏まえつつ、本文とサブテキストを比べ読みしながら、本文中の「無事な世界を、失うこと」という箇所について説明するという活動を行った。「無事な世界」は、本文初読時アンケートの「本文の要旨や筆者の主張に関わると考えるキーワードを挙げてください」という質問事項に対して、最も多く挙げられた語句である。この際、サブテキストを参照する目的は、あくまで本文の解釈を深めためであると伝え、本文から読み取った内容と、サブテキストから読み取った内容とを区別しながら説明するように伝えた。

このことについて、個人で説明を考える時間では、どの生徒も本文とサブテキストを比べ読みする姿が見られ、本文とサブテキストの内容を統合し、自身の考えを形成しようと試行錯誤する様子がワークシートの記述からも観察された(図2)。また、個人で考えた後に他者と意見交流する時

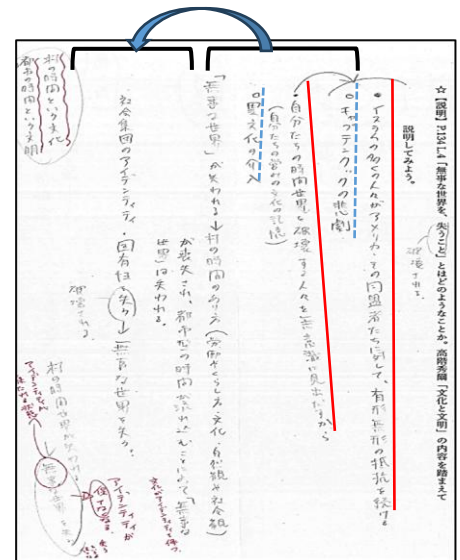


図2 生徒のワークシート

本文の解釈(実線)、サブテキストの解釈(破線)を引用しつつ、統合し、「無事な世界を、失うこと」について説明を試みている。

間でも、本文とサブテキストを確認しながら意見を交流し、よりよい説明をしようと励んでいた。

結果として、「村の時間という固有の文化に、都市型時間という文明が介入することによって、地域の文化と、その地域に住む人々のアイデンティティが一緒に破壊されてしまうこと。」などと説明しており、本文とサブテキストの内容を統合し、自身の考えを形成できていた。

(2) 手立て2について

本単元では具体的に、本文中のキーワードの一つである「グローバル化」について解説ポスターを作成する活動を設定した。生徒は、中学校3年時の公民で「グローバル化」について学習しており、本単元の第1時での「『グローバル化』とは何か。」という問いかけに対して、ほとんどの生徒が、「世界の一体化」と回答していた。本文における「グローバル化」は、「村の時間という固有の文化が、都市型の時間の浸透によって崩壊し、均質化される現象」として描かれており、生徒の既有知識とは異なる側面を捉えていると考えた。そこで、「グローバル化」という抽象的な語句(現象)について生徒が解説ポスターを作成することで、このことについて生徒が能動的に思考・表現すると同時に、生徒が既有知識や経験と結び付けて考え、これまでの「グローバル化」に対する生徒の考えを広げたり、深めたりすることをねらった。

解説ポスターは、Google スライドの1ページ以内に収める形式とした。また、本文とサブテキストの内容を踏まえること、自身の知識や経験を参照して多面的に「グローバル化」を捉えること、中学校3年生が理解しやすい形式・表現で解説を作成することを評価の規準として示した。

実際に解説ポスターを作成する場面では、本文やサブテキストを基に「グローバル化」について多面的に捉え直し、解説しようとする姿が見られた。また、解説対象となる中学3年生を意識しながら、本文の言葉を、能動的に自らの言葉で表現し直そうとしていた。

作成された解説ポスターを確認すると、すべての班が「グローバル化による世界の均質化」または「グローバル化を一因とした争いの発生」について記述しており、生徒が、既有知識としてもっていた「グローバル化」の意味を多面的に捉え直していた(図3、図4)。

生徒の既有知識・経験を挙げている

本文やサブテキストの解釈内容を適宜、引用しながらまとめている

本文とサブテキスト、生徒既有の知識・経験の関連性を図示しつつ統合している

図3 生徒が作成した解説ポスター①

生徒既有の知識・経験と本文やサブテキストの内容を結び付け、具体例を示している(赤下線部)

「一方で」という語を用いながら、「グローバル化」を多面的に捉えている

図4 生徒が作成した解説ポスター②

(3) 手立ての実践後について

これら二つの手立てを取り入れた実践を行った後に、生徒は単元の総括を記述した。その記述を見ると、生徒Aは、比べ読みをすることで、本文の解釈を深めると同時に、「グローバル化」について多面的に捉え直していた。そして、「時間」や「グローバル化」についての考えの広がりを実感していた。生徒Bは比べ読みで学んだことを活かしながら、解説対象を意識しつつ、学習内容と既有知識を結び付けて解説ポスターを作成したことで、「グローバル化」に対する自身の考えを多面的なものにした。生徒Cは、単元全体の学習を通して本文への解釈を深めると同時に、学習内容をさらに発展させて自己の考えを形成することができている(図5)。

生徒A	最初にこの文章(「時間をめぐる衝突」)を読んだとき、単に村の時間が優れていて、都市の時間が劣っていることを伝えたいのかと思っていた。しかし、 <u>サブテキストの読解を踏まえて本文を読み直すと、村の時間という文化が持つ攻撃性やそれとつながるグローバル化による争いについて理解できた。そして、今までよいところしか見ていなかった村の時間やグローバル化について多面的に捉え、視野を広げることができた。</u>
生徒B	グローバル化についての解説の作成では、中学校3年生がグローバル化の多面性を自然と理解できるようことを目指した。 <u>中3の公民で習ったことや、「グローバル化=均一化・一体化」を軸にしながら、正の面と負の面を対比し、どちらかの面に結論が偏らないようにしながらグローバル化の多面性を解説した。</u>
生徒C	グローバル化は互いの多様性を認め合い、争いがなくなっていくことと思っていたが、効率的な発展をもたらす一方で、異なる文化同士の争いに繋がってしまうとわかった。 <u>異なる文化を完全に一つにまとめることは不可能。→どこで折り合うかが大切。</u>

図5 生徒による単元の総括の記述

III 研究のまとめ

1 成果

- 比べ読み活動により、文章相互を関連付けることで、教科書の文章に対する解釈が深まった。また、解釈と自分の既有知識や経験を結びつける姿から、生徒の学びの深まりを捉えることができた。
- 解説活動の中で、情報を精査しつつ、他者に伝えるために能動的に文章を解釈し、試行錯誤していた。また、学習内容を統合して、現実の社会や自己の立場・在り方を見つめ直すなど、生徒の考えの広がりや深まりが見られた。

2 課題

- 教科書の本文やサブテキストの解釈に課題があった生徒は、十分な成果に結び付かなかった。段階的に解釈を進める手立ての必要性を感じた。

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標または登録商標です。

Google スライドは、Google LLCの商標または登録商標です。